

第2表 (小)

学校名 清瀬市立清瀬小学校 (知的障害学級)

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動、各教科等を合わせた指導の重点

ア 各教科

○一人一人の児童の理解度に着目して教材・教具を工夫し、興味・関心がもてる体験的・活動的な学習を展開する。ロールプレイなどを通して自ら学習し、互いに関わり合いながら分かる・できることを増やし、自分の考えを伝え合う力を育成していく。

イ 道徳科

○特に内容項目「生命尊重」については、「いのちの学習」を行い、重点化を図る。

ウ 外国語活動

○外国語活動を通じて体験的な活動を通して異文化に触れさせながら、外国語に興味をもたせ、幅広いコミュニケーション能力の素地を養う。

エ 総合的な学習の時間

○「いのちの学習」を通して自尊感情や自己肯定感、自己有用感を育て、他を大切にす
る心情を育てるとともに自己の生き方について考えさせるキャリア教育を推進する。

○地域理解に関する活動や地域貢献に関する活動など、地域と連携した学習を通して地域を愛する心情や地域に貢献する心情を育てる。

オ 特別活動

○集団の一員としての意識や態度を育むとともに、協力して生活する力、尊重し合う態度を育む。全校行事などでは児童相互の好ましい人間関係を育て、関わる力を高める。

カ 自立活動

○児童の障害の状態や発達段階を的確に把握し、教育活動全体を通して指導する。

キ 各教科等を合わせた指導

○日常生活の指導

・個別指導計画に従って、全教育活動を通して指導をする。児童の実態に即して段階的に繰り返し行い、自分でできることの喜びや自覚を育てながら身辺自立を目指す。

○生活単元学習

・体験的な学習を通し、自分と身近な社会や自然との関わりについての見通しのある学習活動に取り組む経験を積み重ねて自立心を養う。

(2) 生活指導

○安全指導日を活用し、生活安全・交通安全・防災の3観点から実感を伴った安全指導を行い、自ら考え適切に行動できる児童を育成する。

○セーフティ教室等で、防犯・非行防止・薬物乱用防止・情報モラル等の教育を徹底する。また全学年で自転車教室を実施し、児童の交通安全への意識を向上させる。

(3) 進路指導

○学校生活支援シートを活用し、保護者と連携を図り、進路について指導・助言する。

○自立活動をはじめ様々な活動場面を通して、自立への将来的展望に立ち、対人関係や身辺自立の指導にあたる。

○児童の能力や個性に適した進路を選択できるよう、家庭、中学校、特別支援学校、医療機関、発達支援機関、教育相談室等と連携し、教育相談を充実させる。

第2表の2 (小)

学校名 清瀬市立清瀬小学校 (知的障害学級)

3 特色ある教育活動・その他の配慮事項等

ア 生命尊重教育

- 授業時間を増加させた生活科及び総合的な学習の時間における「いのちプロジェクト」を中心に、道徳科や特別活動、各教科等の生命尊重教育に関する学習内容を編み合わせた「いのちの学習」を実施することにより児童の生命尊重教育を推進する。
- 「いのちの学習」を通して、児童一人一人の自尊感情や自己有用感を育て、学校 2020 レガシーとして障害者理解を深めるとともにボランティアマインドを醸成する。
- 「いのちの学習」を全ての教育活動を横断的に紡ぎ合わせ、カリキュラム・マネジメントの推進を図る。

イ 地域と連携した教育

- 全ての学年において「地域理解」と「地域貢献」の両面から見直し及び新規開発した単元学習を学ばせることにより、児童の「地域愛」を育み、「地域へ貢献意識」の醸成を図る。
- 「いのちの学習」と関連性をもたせた「地域と連携した教育」を推進することにより、相乗効果をもたらせて児童の豊かな心を育み、地域を愛し地域に愛される学校経営を推進する。

ウ 個別最適な学びの具現化

- 「ICT 機器の活用」・「特別支援教育の充実」の2つの側面から捉えた、清瀬小「学びのガイドブック」に基づき、個別最適な学びの具現化及び日常化を図る。
- 日常の授業において、個別最適な学びと協働的な学びの往還を図り主体的・対話的で深い学びを展開することにより、主体的に学び続け困難な局面に対峙しても最適解を見出せる力を育成する。

エ 学力の保障

- 朝学習及び放課後学習、長期休業中補習の時間を確保し、全ての学年において東京ベシックドリルを活用した学び直しを行う。
- 算数検定や漢字検定、英単語検定など民間と連携して導入し、児童の学びに対するモチベーションを向上させる。
- 日常の授業において「振り返り」の時間を確保し、児童の理解状況を確実に把握する。また必要に応じて補習時間を確保し実施する。
- 校内に「学習相談センター」を設置し、学習の悩みや相談などに対応できるよう環境を整え運営する。

オ その他

- 児童の学校生活の様子や健康状態、学習状況などをまめに家庭に伝え連携強化を図る。
- 学習相談センターやSC等の活用により、児童の悩みや困り感へ適切に対応する。
- 食育や保健指導の充実を図り、児童の望ましい生活習慣を確立し定着化を図る。